

情 報 公 開 文 書

研究の名称	集簇性ざ瘡に対するアダリムマブの有効性の検討
整理番号	
研究機関の名称	国立大学法人富山大学
研究責任者	富山大学学術研究部医学系皮膚科学 准教授 牧野輝彦
研究の概要	<p>【研究対象者】 2020年4月1日～富山大学皮膚科を受診した集簇性ざ瘡患者のうち、アダリムマブで治療した患者さん。</p> <p>【研究の目的・意義】 集簇性ざ瘡は、顔面や胸背部に多数の面皰と膿腫・結節生じるざ瘡（ニキビ）の最重症の病型で、通常の尋常性ざ瘡（ニキビ）とは異なり、治療に難渋する症例が多い疾患です。近年、海外では集簇性ざ瘡に対するTNF-阻害薬（アダリムマブ、エタネルセプト、インフリキシマブ）の有効性が報告されています。また、本邦でも本疾患の近縁疾患である化膿性汗腺炎に対して、2019年にアダリムマブが保険適応症として追加承認されました。本研究では、標準治療に無効であった集簇性ざ瘡の患者さんに対して、アダリムマブの効果・安全性を評価し、アダリムマブが集簇性ざ瘡の有効な治療法となり得るかを検討します。</p> <p>【研究の方法】 アダリムマブで治療した集簇性ざ瘡の患者さんについて、アダリムマブ投与前後の炎症性結節の数、膿瘍の数、瘻孔または排膿路の数を確認し、その効果についてを検討します。</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ～ 2025年3月31日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 学会発表および英文誌での論文掲載</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法（他機関への提供の有無）	<p>診療記録（カルテ）を用います。 診療記録（カルテ）から利用する情報：患者さんの性別・年齢、罹患期間、前治療、併用治療、炎症性結節の数、膿瘍の数、瘻孔または排膿路の数、アダリムマブの投与量など。 これらの試料・情報に関して、他機関への提供は行いません。</p>
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	富山大学附属病院 病院長 林 篤志
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	富山大学附属病院皮膚科 医員 古川史奈
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	<p>研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>電話 076-434-7305 FAX 076-434-5028 E-mail dermatol@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名 富山大学附属病院皮膚科 医員 古川史奈</p>